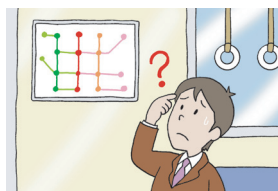


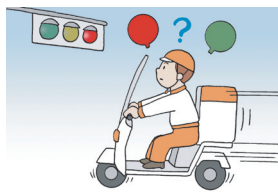


色覚異常の人が日常生活で困ること

- ・黒板に書かれた赤チョークが読みにくい
- ・絵を描いたとき、肌を緑色に塗った
- ・色鉛筆の赤と緑と茶の区別ができなかった
- ・焼肉を食べているとき、生の肉を食べてしまう
- ・信号を渡るとき、赤・緑が分らない
- ・赤のボールペンを黒と思って使っていた
- ・みんなが綺麗だと感じている花の色が綺麗に見えない
- ・幼稚園のお絵かきで皆と同じ色を描けない
- ・図画工作の授業で色が違うと言われた
- ・色の使い方が少ないと言われた
- ・絵本を一緒に見ている、変だと感じた
- ・手に傷をして血の色を緑だと思っていた
- ・カレンダーの日・祝の赤が分らなかった
- ・パソコンで色指定ができない
- ・車のブレーキランプとスモールランプの違いがわからない
- ・配線工事で赤と緑の区別ができない
- ・トマトやイチゴの、緑から赤になるのが見分けがつかない
- ・回転すしの皿の色で、茶と緑の区別ができない
- ・人の顔色がわからない
- ・印刷関係の仕事で色校正ができない
- ・色で見分ける資料が分らない
- ・魚の鮮度、野菜の鮮度が分らない
- ・静脈ラインが見えない
- ・白板につけるマグネットの色区分ができない
- ・赤鉛筆を使っているのが見えない
- ・写真等の色調整ができない
- ・薄い色の伝票の見分けができない
- ・髪の毛の色の判断。毛染めの時、色が分らない
- ・船舶免許が取れない
- ・ピンクの蛍光ペンでの印が分らない
- ・白と思って履いた靴下がピンクだった etc...



・地下鉄の路線図の色が分りにくい



・信号の色の判断に迷うことがある



・シントウと思って食べたら赤唐辛子だった



・ビワの熟した色がわからず緑色の実を採った



・車の塗装で色を間違えた

※人によって個人差があります。これらはおよそ3,000人の色覚異常を有する人々から寄せられた声の一部です。



カラーバリアフリーについて

「カラーバリアフリー」への理解

今、「色覚」のバリアフリーは、進んできています。チラシの文字はより読みやすくなるように縁取りの処理がされていますし、テレビの字幕も同じように文字の周りに緩衝効果が施してあります。TVリモコンなどの機器のコントローラには機能ボタンの色分けにプラスして、色名を書いているものもあります。これらは一般の人々にとってもわかりやすくみんなにとってのバリアフリーとなっています。



※カラーバリアフリーの試み＝文字を縁くりにして読みやすくしたり、色だけでなく「色名」を表示したり

周囲が理解し、適切な対応を行うことが大切です

子どもの色の見え方に違和感を感じた場合、「これは何色？」と聞きたくなりますが、それは避けましょう。同様に色の名前を教える時に「えっ、この色が分らないの？」などの不用意な言動を避けて教えてあげてください。例えば「赤いバラの花ね」など、花の色の名前を併せて具体的に言うことも一つの方法です。クレヨン、絵の具、色鉛筆なども色名が表示されているものを使い、色の名を参考にするようにアドバイスすることも大切です。

違いがわかりにくい色の組み合わせがあります

色覚異常を有する方々の色の見え方、感じ方はさまざまですが、色の組み合わせによっては同じように似た色に見え、識別がしにくい場合があります。



※日本眼科医会配布の資料から。厳密な色再現ではありません。